

社会科 学習指導案

〇〇市立〇〇小学校

授業者 〇〇 〇〇

1. 日時・場所 2026年〇月〇日(〇) 第〇校時・〇年〇組教室
2. 学年・組 4年〇組 (計〇名)
3. 小単元名 「地域の伝統的工業を生かしたまち」
4. 単元目標 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で意欲的に調べ、新聞にまとめる。また地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して県内の特色ある地域では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解することができるようにするとともに、地域の特色やよさについて考えようとする態度を養う。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大阪府内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	大阪府内の特色ある地域の様子について関心を持ち、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に問題を追究し、解決することを通して、大阪府内の地域の特色やよさについて考えようとしている。

6. 教材について

小学校学習指導要領の第4学年の内容(5)を扱った単元である。

本単元の学習は、大阪府内の自然環境や歴史的背景、地域資源、それに伴う人々の活動などのちがいを知り、それぞれの地域の特徴・特性に合わせた農業・産業が発展していたり、人々が協力していたりすることが、魅力あるまちづくりにつながっていることについて追究することを通して、児童一人ひとりが地域社会の一員であることの自覚を促すことを主なねらいとしている。

大阪府は古くから「天下の台所」と言われるように物流・商業の拠点として栄え、多種多様な産業が根付いている。いくつかを例に挙げると、堺市の「堺打ち刃物」や「自転車」、東大阪市の「金物(ネジ等)」、泉州地域(貝塚市・泉佐野市等)の「綿織物(タオル)」などがある。また府内の産業は、以下のような特徴がある。一つめは、産業の集積である。前述のように、各産業が特定の地域に密着することで、各企業のつながり・連携による「分業制」や大型注文への対応、各社の技術や効率的な方法などの情報共有による技術革新が可能となり、より高い技術を持つ企業が多く存在している。二つめは、「ものづくりのまち」としての誇りである。各企業は、単に製品を作るだけでなく、高度な技術や職人の技を現代のニーズに合わせてながら進化させてきた。その結果、産業振興のみならず、地域の活性化・ブランド化などの地域振興や関連人口の拡大が促進された。言い換えれば、地域経済を支えるだけでなく、地域のアイデンティティや伝統文化を継承する重要な役割を担っていると言える。

一方、日本の産業全体に着目すると転換期を迎えている。戦後の技術革新や大量生産・大量消費による高

度経済成長期を経て、日本は世界屈指の工業国としての地位を確立した。特に電化製品や自動車関連の産業において、日本は「ものづくり」の主役であった。しかし近年は、以下のような変化が見られる。まず、高付加価値の商品づくりや環境負担・持続可能性を意識した「ものづくり」への産業構造への変化である。顕著な変化の一例として、環境負荷のかかりにくい持続可能な製造を求められるようになった。高度経済成長期におきた公害問題の反省や2015年の国連で採択された「SDGs」等によって、地球環境によい製造を各社が行うように法整備も整えられてきた。また、国際貿易の活性化によるも原材料の確保と利益追求の難しさが挙げられる。世界貿易が当たり前となった現在では、各地の気候や風土に合わせた効率的な生産を行うことで国内の経済・産業は発展を遂げてきた。その反面、貿易が前提となり、他国の自然災害や情勢不安等によって、資源の確保が難しくなったり、高騰を招いたりすることもあるということである。また、安価な海外生産品との競合も起こっており、手間暇をかける伝統産業や地場産業のシェアが圧迫されており、利益追求がこれまでのように一筋縄ではいかない状況である。それに加えて、人材確保や設備投資に対応する余裕がない企業もある。

このような、岐路に立たされている日本産業を題材にするからこそ、子どもたちは①困難な課題を解決しようとする人々の思い・願いに留まらない社会構造の理解、②価値の再発見についての学習をより深めることができると考える。①の前半部「思い・願い」については、これまでの社会科教育で十二分に実践されたものであるが、より科学的・分析的に社会現象を捉えるには、複数の事例を対象にすることで「社会としての価値判断基準」を醸成することが必要である。本単元でいえば、府内には特色ある工業や農業、伝統産業など多数の産業が存在する。それらの事例を複数取り上げ、比較・分類・統合・総合などの視点から思考することにより、「なぜこのような状況になったのか」「他の産業との共通点はないのか」など冷静な分析の視点を持つことができる。つまり、複数の社会事象を通して社会構造に注目することができるということである。②については、これまで（特に高度経済成長期以降）の日本社会では、「効率性」「生産性」を重視してきた。その成果もあり、前述したように、一時は「ものづくり」の世界のトップランナーとなったが、現在ではその価値観からの転換を求められる時代となっている。「効率性」「生産性」だけでは、「低価格」の海外生産品との競争に対抗するのが難しいということである。その一方で、見直されている産業もある。その1つは、宮大工をはじめとする伝統工芸である。また、食品産業におけるブランド化の取組みもそうであろう。伝統工芸や食品のブランド化は、効率性とはかけ離れた「手間暇」をかけて製造・栽培することにより付加価値を高めるものである。長期間その物が使用できたり、自然由来の素材を使ってつくすることで、環境負荷が非常に少なく、そこでしか味わえないものを再現することができたりする。ただ、繊細な作業が必要なため、技術の習得に時間がかかることはもちろん、実際の作業も手間暇がかかるため、通常より費用は高額となる。日本の伝統的な産業などの「手間暇」のかけ方を体感すると、子どもたちはより「効率性」や「生産性」に注目することになるかもしれない。しかし、これからの日本の産業を考えていくと、その裏にある「長く使える(持続性)」という価値や「ここにしかない(固有性)」という価値に気づくことができ、「ものづくり」で重視すべき価値とは何かを個々で判断することが可能となる。

このように、社会諸科学の視点から、大阪府における工業や農業、伝統産業を探究することで、大阪府内の特色ある地域では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解するとともに、自らの価値観を問い直しながら新しい価値基準を構成し、地域の特色やよさについて考えることが可能となる教材である。

7. 児童の実態

略

8. 指導観

本単元では、大阪府の工業・農業・伝統工芸の各事例を通し、社会情勢の変化の中で産業をいかに継続させていくかという「価値判断」を学習の軸に据えている。児童は、1学期に「ゴミの処理と利用」におけるリサイクルの功罪の学習を通して、多面的・多角的な「社会的な見方・考え方」の基礎を培ってきた。さらに2学期の「伝統行事」の学習では、岸和田だんじり祭における、伝統の継承と現代の課題を対比しながら価値判断をするという経験をする中で、当事者意識を基盤とした、地域社会の存続に関わる意思決定の難しさとその重要性を実感し始めている。本単元ではさらに一步踏み込み、「伝統」と「合理性」という対立を軸に、これまでの価値を問い直す学習を展開する。また具体的な事例として、東大阪市周辺の町工場、泉州地域の春菊、日本最古の会社である「金剛組」をはじめとする宮大工の三事例を取り上げることとする。東大阪市周辺の町工場は、世界屈指の技術力があり、飛行機や自動車の精密な部品の製造をはじめ、緩まないネジなどのそこでしか作れない独自性や、ネジの溝を圧力で形成する技術を医療用に転用した人工関節の発明などに代表される既存技術どうしの掛け合わせなどユニークな企業が数多く存在している。一方、安価な海外製品との価格競争が起こっており、持続のための対策が必要な状況である。また泉州地域の春菊については、大阪という大都会を背景にした近郊農業によって生産量が日本一であるにも関わらず、生産者の更なる経済的な安定等をめざし、近年ブランド化が進められている。そして宮大工は、寺社建立の設計・施工・修繕まですべてを一気に請け負う職種であるが、その技術の精密さや仕事の複雑さから後継者の確保が危機的状態となっており、昨今では大阪府でも養成塾が開校されたり、テクノロジーを活用した技術継承が試みられたりしている。この三事例は、日本の産業を理解するうえでも、重要な社会的価値を持っていると考える。加えて、これらの事例を見ていくと、工業における「国際競争」、農業における「付加価値（ブランド化）」、伝統工芸における「技術革新（テクノロジー化）」は、いずれも「伝統的な固有価値」と「現代的な合理性」の葛藤という共通の構造を持っている。児童がこれまで培った多面的・多角的な視点を、これらの具体的な対立軸をすり合わせることで、社会を支える人々の決断の重みと自分たちの生活を支える地域の未来を構想する力を養うことが期待できる。

指導に当たっては、各事例において以下の三つの段階的な手だてを講じ、児童の価値判断を支援する。

第一に、「共通の判断基準（ものさし）」の構造化である。「コスト・効率」「品質・技術」「継承・願い」といった価値判断の指標を単元全体で共有する。工業で用いた「外国製との比較（経済性）」という視点を、農業のブランド化や伝統工芸におけるテクノロジー化の場面でも再利用することで、既習の知見を新たな課題に適用するスパイラルな学びを実現する。

第二に、「価値的葛藤」を与える具体的な資料の提示である。例えば宮大工の学習においては、匠の技だけでなく、後継者不足という「存続危機」や、デジタル化による「技術の民主化（誰もが継承可能になること）」といった、一見すると伝統に反するような合理的データも提示する。これにより、児童が「正解」を求めて周囲を伺う状態を脱し、自分なりの価値基準をもとに判断せざるを得ない状況（価値葛藤）を作り出す。

第三に、「価値観・納得解」を言語化する対話のプロセスの重視である。価値判断の場面では、単なる多数決ではなく、異なる立場を選んだ他者の根拠を聞き、自分の考え・価値基準を修正・補強する時間を確保する。「他者の意見を伺う」という児童の実態を、多様な価値観を統合して「よりよい社会の姿」を模索する活動を通して、自分なりの価値判断について根拠を持って表明させたい。

このように、価値の対立や葛藤を軸に学習を展開することで、大阪府の特色ある地域では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解することができ、地域の特色やよさについて考えようとする態度を養うことができると考える。また同時に多面的・多角的な視点から「これからの日本産業の在り方」について問い直すことができ、持続可能な価値判断を行い続けることができる児童が育つと考える。

9. 単元指導計画 全 17 時間

次	時	主な学習課題・活動	獲得する知識・価値
1	1	大阪府にはどのような産業があるのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">どうして場所によって盛んな産業がちがうのだろうか</div>	○大阪府には地域によって生産・栽培されているものが変わる。
	2	東大阪市は、どうして「ものづくりのまち」とよばれるのだろうか。 (地理的視点)	○東大阪市は、大都市に近いという理由等や貸倉庫制度などから、工業製品が盛んにつくられるようになった。
	3	東大阪市は、昔から同じ製品がつくられているのだろうか。 (歴史的視点)	○東大阪市では、古くは鋳物やワイヤーなどの農作業の道具、近年ではネジや自動車部品などが時代に合わせてつくられており、つくられるものは、より高い技術の製造品へと変化している。
	4	東大阪市では、どのような製品がどのようにつくられているのだろうか。	○それぞれの用途に応じて、各会社が工夫をこらした製造が行われており、世界一の技術をもっている工場もある。
	5	東大阪市のこれからの工業製品は、これまでどおりの売り方(安く提供)か、違った売り方(付加価値をつけて高く提供)か、どちらの方がよいのだろうか。 (市民的視点・価値判断)	○ これまでどおり 多少安くてもこれまでどおりだと今と同じだけ売れるから。 自分たちも安いものを買うことができる。 ○ 違った売り方をする もっと安い外国製品が入ってきた時に売れなくなる。 従業員の給料もよくすることができる。 ○東大阪市は、MOBIO ものづくりビジネスセンター大阪という会社どうしの技術をつなぐ場所をつくることで、「部品をつくる場所」から「アイデアを形にする場所」へ変わろうとしている。
2	6	大阪府では、どのような野菜がつくられているのだろうか。	○大阪府では、多種・多様な野菜が生産されている。 ○野菜でいえば「春菊」「ふき」、果物でいえば「桃」「イチジク」「ブドウ」などの生産が多い。
	7	どうして大阪府では、「春菊」や「イチジク」の生産量が多いのだろうか。 (地理的視点)	○大阪の農業の特徴は近郊農業である。 ○「イチジク」や「春菊」など、大都市という立地を生かして高付加価値・高鮮度の野菜や果物の生産に注力するようになった。

	8	「春菊」や「イチジク」は昔から大阪でつくられていたのだろうか。 (歴史的視点)	○昔は綿花や菜種油などの生産が盛んであったが、安い外国製品が輸入されるようになり、「食」の野菜へと移行するようになった。 ○現在では、地産地消・なにわの伝統野菜などで消費者へ大阪の野菜を知らせようとしている。
	9	売れている春菊を、「泉州きくな」というブランドにすることは必要なのだろうか。 (市民的視点・価値判断)	○必要派 農家の方がより稼ぐためには、ブランド化が必要。 ブランド化によって、より多くの人に認知してもらうことが可能。 ○不必要派 生産量1位は売れている証拠、ブランド化による農家の方の負担もあるし、高価格による売上高の減少につながる恐れがあるので、今はやらなくてよい。
3	10	どうして大阪府に、世界最古の会社があるのだろうか。 (歴史的視点)	○大阪府には寺社が多く、それらを建立したり修復したりする宮大工という仕事があるので、大阪に世界最古の会社が存在する。
	11	宮大工はどのような仕事をしているのだろうか。	○宮大工は他の大工より習得する技術が多く、その数は100くらいある。 ○建築だけでなく、修理や飾り・模様まで一人で請け負っている。 ○そのため、修行期間がとても長い。
	12	どうして金剛組は1400年以上、大阪府を拠点にしているのだろうか。 (地理的視点)	○大阪府の河内長野市や千早赤阪村には、材料となる「河内材」が育つ山が多々あり、河内材はまっすぐで強い木材になるので、寺社建立の材料に適している。 ○また、大阪府には多くの川が流れており、木材の運搬に適している立地である。

	13 (本時)	これからの宮大工は伝統的なやり方を守るべきか、テクノロジーを積極的に取り入れるべきか。 (公民的視点・価値判断)	○ 伝統派 人を育てるのには、これまでのやり方が一番よい。 職人技だから、テクノロジーで伝えられないことがある。 ○ テクノロジー派 修行期間が長すぎて後継者不足になっているのでよい。 BIM のシステムはすべてを請け負う宮大工と合う。
4	14	外国の人はどうして、日本で暮らしているのだろうか。	○大阪府には世界中から人が集まり、生活をしている。 ○語学や技能習得など自己実現のために、日本に来て勉強したり働いたりしている。
	15	大阪府では、どのようにして国際交流を進めているのだろうか。 (公民的視点)	○国際交流の中心となるセンターをつくり、お互いの文化の理解が進むようにしている。 ○友好都市の関係を結ぶなど、人やものなど様々なつながりをつくろうとしている。
5	16 17	大阪府のPRパンフレットをつくる。 (公民的視点)	○大阪府には地域の特色に合わせて、様々な産業や取組みが存在する。

10. 本時の指導(13/17時間)

(1) 本時のねらい

宮大工の従事者数や職場環境などの状況を踏まえ、これからの宮大工はこのままの伝統的な方法を貫く方がよいのか、テクノロジーを取り入れて近代化する方がよいのか価値判断することができる。

(2) 展開

段階	◆児童の学習活動・予想される児童の反応	◇教員の指導・助言	評価
問題把握 (5分)	1. 前時までの学習をもとに、宮大工の置かれている状況を確認する。 ・覚えなければならない技術の種類が多い ・設計から建築・修理まで行う(他は分業制) ・修行期間がとても長い		
	2. 本時の学習課題を知る。 これからの宮大工は、伝統的なやり方を残すべきだろうか、テクノロジーを取り入れるべきだろうか		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">追究・価値判断(30分)</p>	<p>3. 本時の学習課題について自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジー等、便利なやり方がこれからはよい ・これまで積み上げてきたものをなくすのは… <p>4. 資料をもとにこれからの宮大工の在り方について、自己の価値判断とその基準を再検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジーで修行期間が短くなるのはよい ・若い人もすぐに一人前になれるうれしい ・年配の人は BIM をつかえないのでは？ ・これまでの技術がなくなってしまうのではないか ・修行でしか分からない感覚があるから全ては… <p>5. 全体交流を通して、自己の価値判断とその基準について再吟味する</p>	<p>◇自分の価値が現時点でのあたりに位置しているかグラフを用いて可視化する。</p> <p>◇児童の意見をつなげて、見方・考え方を広げられるようにする。</p>	<p>○宮大工の在り方について、資料や自身の価値観をもとに、評価をしている。</p> <p style="text-align: right;">(発言・ノート)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ(10分)</p>	<p>6. 伝統かテクノロジーか、価値判断する。</p> <p><伝統派></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人の「勘」でしか分からないこともあるから、テクノロジーに置き換えることはできない ・今まで積み上げてきた技術がなくなるかもしれないから、伝統的なやり方を残すべき <p><テクノロジー派></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の技術からの技術がなくなっても、その分新しい技術ができるので、そんなにかなしむことはない ・宮大工を増やすためにも、修行期間は減らすような取り組みをした方がよい 	<p>◇学習による考えの変化を記述するように促す。</p> <p>◇友だちの意見とのつながりも意識させる。</p>	<p>○自分の考えをもとに話し合ってまとめたノートの内容を分析し、表現している。</p> <p style="text-align: right;">(発言・ノート)</p>